

令和 8 年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

6 年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	○漢字における定着率は20%～90%と差が大きい。ノートでは学習している漢字でも書けていないことがある。 ○根拠を明確にしながら自分の考えを形成・表現できる児童が少ない。また、他者の意見を受け止め、それを踏まえて自分の考えを広げたり深めたりすることに課題が見られる。	○朝学習などで定期的に新出漢字のミニテストを行い学習の定着を図れるようにする。また、学習した漢字を日常的に使うよう指導する。学習場面以外で作成する掲示物にも漢字を使うよう指導する。 ○根拠を明確にして考えを書く・話す活動を継続的に取り入れるとともに、対話的な学習の場면을意図的に設定し友達の考えとの共通点や相違点を基に自分の考えを再構築する活動を充実させる。	
社会	○知識の平均到達度は90%と高く、基礎的な知識は概ね定着している。一方で、獲得した知識を根拠として主張と論理的に結び付けて表現できる児童は30%程度にとどまっている。知識を根拠として活用し、論理的に説明する力に課題が見られる。	○複数の資料（教科書・地図帳・統計資料・写真・年表など）を基に根拠を見だし、自分の考えを説明する学習活動を充実させる。また、「資料のどこからそう考えたのか。」を問い返す発問や交流活動を取り入れ、資料を根拠として主張を論理的に表現する力を育成する。	
理科	○知識の定着は概ね図られており、見出した問題に対して予想を根拠立てて表現できる児童も増えてきている。一方で、問題を解決するための方法を具体的に考え、適切に表現することができない児童は少ない。問題解決に向けて、どのような方法が妥当であるかを考	○実験計画表を用いて、「何を調べるか。」「どうやって調べるか。」を明確化できるようにし、それを基に他者と交流する活動を取り入れて考えを比較し、より適切な方法を検討する機会を設ける。 ○個人で書いた実験計画書を基に学級全体で、実験方法を吟味する時間を設け、具体的にどのように書いたらよいかやよりよい実験方法を考え表現する力を育成	

	え、表現する力に課題が見られる。	する。	
体 育	○運動に対して意欲的に取り組む児童は多い。一方で、技能の向上に向けて自らの課題を見だし、その解決に向けて粘り強く取り組む力が十分に身に付いていない児童が多い。	○振り返りの時間に学習カードを活用し、自らの学びを振り返ることで課題を見いだせるようにする。また、自己の課題に応じた目標を設定させ、次の学びへと繋がられるようにする。 ○自己の課題を解決するために、運動する場や練習方法を工夫するとともに、ICT を効果的に活用できる学習環境を整備し、一人一人の課題に応じた学習を支援する。	
総 合 的 な 学 習 の 時 間	○自ら課題を設定し、情報を収集することはできる。しかし、収集した情報の信頼性について疑問をもち、複数の資料を用いて裏付けを行おうとする児童は少ない。 ○調べた内容を自分の言葉で整理・再構成して表現することが十分ではない。	○インターネット上の情報だけに頼らず、書籍や新聞、公共機関の資料など複数の情報源を活用して調査するよう指導する。情報の信頼性を確かめながら調査活動を進められるようにする。 ○調べた内容を自分の言葉で整理・再構成してまとめる活動を取り入れるとともに、要約や言い換えの方法を指導する。	